

派遣先所属 宮城県仙台塩釜港湾事務所  
氏 名 伊藤 弘文 (いとう ひろふみ)  
派遣期間 平成31年4月1日～令和2年3月31日

## 1 派遣業務の内容、現況

派遣先の仙台塩釜港湾事務所では仙台港区と塩釜港区と松島港区の3港区の主に岸壁・棧橋などの港湾施設や防潮堤・陸閘などの海岸保全施設や船揚場や物揚場などの漁港施設の復旧・復興に関する業務を行っています。これは震災により岸壁や防潮堤や船揚場などの公共土木施設が壊滅的な被害を受け機能不全となっているため、その復旧のための業務です。そして震災から8年8ヶ月が過ぎ、現状では仙台港区および松島港区では、全てが完了していますが、塩釜港区の港湾施設の棧橋や海岸保全施設の防潮堤などが復旧作業中となっています。台風の襲来や高潮などの対策として海岸保全施設の一日も早い復旧が急がれています。

担当業務は、設計業務及び工事監督業務及び工事調整です。

具体的には各省庁の検査の受検及び設計コンサルタントとの設計打合せ、設計業務、工事の発注業務、契約した工事の工事監督業務、設計変更業務並びに関係機関等との工事調整です。

これについては、各施設の復旧工事を進めるために地元漁業協同組合への工事説明や漁業活動(のり養殖)に支障のないように工事時期の調整や地元企業への工事説明や工事への協力を行っています。地元自治会への工事説明なども復旧工事を進めるにあたって大変重要な事柄です。

震災から8年8ヶ月が過ぎ、復旧工事の完成率は確実に大幅に上がってきています。

災害復旧事業としての復旧工事中の工事や完成した工事について、各省庁の各種の検査が毎年目白押しとなっており、通常の業務のほかに各種検査の調書作成などを宮城県職員と協同して行っています。

今後は、復旧業務を進めるにあたっては、宮城県のプロパーの方から様々なご指導を受けながら、さらなるスピード感を持って被災地の復旧・復興業務に当たっていきたくと思っています。

当港湾事務所には東京都から派遣職員1名が3ヶ月交代で応援にきています。

被災地派遣職員の先輩として、復旧事業の設計書の作成や書類の作成などわかることはすべて日々の業務を通じ教えるようにしています。また、CADの操作などわからないときは、教えてもらうなど、お互いコミュニケーションを取りながらやっています。

七ヶ浜町 船たまり 着手前



七ヶ浜町 船たまり 施工中



## 2 被災地の復旧・復興の状況

宮城県の地震・津波被災地域においては、インフラ復旧は岸壁や栈橋など港湾施設は90%台まで復旧しており、すでに港湾荷役や観光船などの離発着に利用されています。

防潮堤や陸閘などの海岸保全施設は70%弱の完了率となっています。

港に隣接した住宅地では土地区画整理事業が進み、嵩上げされた土地に次々に新しい住宅が建ち、新しい街並みが形成されています。

画像は七ヶ浜町の菖蒲田浜海岸の様子ですが、サーフィンを楽しむ人が増えています。

七ヶ浜の海



## 3 被災地へ派遣となって感じたこと

宮城県に派遣となって、日々、遅くまで復旧作業の業務を行っており、日頃の疲れを癒すため、週末は宮城の秋保温泉や秋田や岩手の源泉かけ流しのひなびた地の温泉巡りをしています。

東北には豊かな自然やそれぞれ趣きのある秘湯の温泉場がいたるところにあります。

心身をリフレッシュして復旧・復興に全力で当たっていきます。

東北の秘湯 源泉掛け流しの宿



(令和元年10月作成)